

令和7（2025）年度

女性の地域活動推進セミナー（女性教育指導者研修）①

実施報告

実施日：令和7（2025）年 7月 2日（水）

女性の地域活動推進セミナーの第1回は、国立女性教育会館理事長から「男女共同参画の推進のために」と題して講話がありました。受講者が対面受講とオンライン受講のどちらかを選択するハイフレックス方式で実施しました。

説明「本研修について」「地域の現状と課題の把握」

総合教育センター職員

はじめに、本研修のねらいと研修全般、グループ研究の概要についての説明がありました。

次に、受講者同士で自己紹介を行った後、地域課題解決のための取組として、地域課題解決型学習を取り上げ、県教育委員会が作成した「地域元気プログラム」を活用した演習を行いました。子育てに関する地域課題をテーマに、資料の読み取りやグループでの話し合いを通して、家族の形が様々に変化していることに伴い、各家庭における子育ての事情、役割分担などが変化している現状を把握しました。そして、社会全体で取り組む子育て支援と家庭教育支援の課題について考えを深めました。対面受講者はグループで、オンライン受講者はブレイクアウトルームを活用して、受講者同士の考えを積極的に話し合う姿が見られました。



講話「男女共同参画の推進のために」 国立女性教育会館 理事長 萩原 なつ子 氏

萩原氏は、「環境社会学」「男女共同参画」「非営利活動論」等を専門とされています。講話の前半では、男女共同参画に関する国内外の動向や歴史について説明がありました。後半では、アンコンシャス・バイアス（無意識の思い込みや偏見）やウェルビーイングについての説明があり、女性の地域活動に関する事例として「としまF1会議」が紹介されました。最後に、人生100年時代の生き方として「人生の4つのワーク」が示されました。



また、SDGsの理念でもある「誰一人取り残されることのない社会」を実現するためには、ジェンダーギャップ（男女の性差によって生じる格差）や、社会や文化の中でつくられてきた「男らしさ」「女らしさ」というイメージ・偏見を解消することの重要性を強調されました。受講者は、講話を通して新たな知見を得るとともに、男女共同参画に対する理解を深める機会となったようです。



<受講者の感想から>

- 「ジェンダー負荷の思い込み」という言葉を初めて知りました。思い込みに気付いたら、修正する習慣をつけようと思います。
- 「新・性別役割分業」について初めて触れました。バイアスをなくすことで、生きやすい地域になり、若者の地域定着、ひいては少子高齢化社会の改善につながるとわかりました。
- ジェンダーバイアスを取り除いていくのには、まだまだ時間がかかりそうだと感じましたが、今ここで動き出さないともっと大変なことになると感じました。誰一人取り残さない社会を目指して、今後の活動をしていきたいと思います。

研修内容に関するお問い合わせは、栃木県総合教育センター生涯学習部まで
TEL:028-665-7206 e-mail: skc-syougai@pref.tochigi.lg.jp